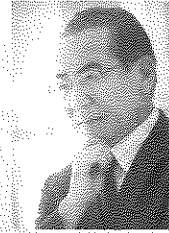


～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第94回】 中小企業の存在意義



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、佛経営改善支援センター（福岡市、URL <http://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家として、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

日本には、大企業が1万1000社、中小企業が380万9000社あります。構成比は大企業が0.3%、中小企業が99.7%と、ほとんどは中小企業です。現在、日本企業の生産性が低い原因が中小企業の数の多さであると決めつけ、これを減らそうという動きがあります。小泉内閣は聖域なき構造改革の名のもと、労働者派遣法の改正や郵政民営化を実施したうえ、保健所まで減らしてしまいました。現在の日本の混乱の元凶を作った人物がそれを推進しようとしているのです。しかし、なぜ日本に中小企業が多いのかということ一度考えておかなければこうした論議を安易に進めることはできません。

なぜ中小企業が多いのか？

日本は南北に長く、なおかつ東西に傾いているため地理的、気候的に多様な国家です。その自然環境の多様さ故に各地に様々な地方文化が存在しています。例えば日本は狭い国土でありながら、方言が16系統、140種類存在します。東北の人と九州の人が本気で方言でしゃべったら、半分も理解することはできないでしょう。地元同士の方々が話している言葉は、他の地方の人からするとほぼ外国語と言って良いほど難解なものです。こうした特殊性は、国の成り立ちにも大きく関わっています。

平安時代から戦国時代まで続いた地域国家の数は80を超えます。狭い国土ながら行政区分として必要とされたものです。江戸時代の幕藩体制においては、親藩大名が12、譜代大名が144、外様大名が100の256藩に分かれていたのです（時代によって変動）。なぜそれほど細かい行政区分が必要だったのか？ 狭い島国ながら現在も47の都道府県があります。

日本の特質と特徴

こうした多様な風土と特殊な地理的要因が日本人の特質を生みました。日本は極東の小さな島国

ですが、異国の影響を受けながら日本文化を成熟させてきました。古くは中国、戦国時代はスペイン、ポルトガル、鎖国していた江戸時代にはオランダを通して海外の影響を受けてきました。明治維新後は主に英国、戦後はアメリカの影響を受けて独自の文化を作り上げてきました。

インド、中国ではすでに体系的に存在しない仏教という宗教を日本人はきちんと温め続けてきたほか、外国から入ってきた文物についても日本独自のものに作り替えてきました。ラジオは日本人が作ったものではありませんが、日本のトランジスタラジオは世界を席卷しました。自動車も日本が発明したものではありませんが、日本車は性能や乗り心地、安全性において世界で高い評価を受けています。つまり日本という国家は多様な社会であるが故に、細やかな文化を育むことができる特質を持っているのです。

中小企業の生き残り方

日本に中小企業が多い理由は、そうした日本独特の風土にあります。大手企業には、地方の村や町、地域個別のニーズに応えるだけの細やかさはありません。ましてや外国企業に日本人に合った製品やサービスが提供できるとはとても思えません。北海道の人に南九州のニーズが分からないように、雪国を知らない人たちに雪国のニーズには応えられません。だからこそ地域のことを熟知する中小企業が必要なのです。

無論、自分で生き残る意欲もなく、国の補助金や金融システムに頼るだけの中小企業は淘汰されるべきです。しかしながら、意欲のある中小企業は生き残っていかなければなりません。中小企業でなければ、地域のニーズに適った素材や製品、サービスの提供はできないのです。生産性が低い中小企業は減らすべきだと言う外国人の意見など聞く必要は全くありません。もちろん、生産性向上は重要なことですが、その前にこうした中小企業の存在意義を強く認識しなければなりません。